

## 鉢花におけるオリジナル品種の育成に取り組む ～消費者に喜ばれ、きれい！かわいい！をモットーに～

津島市 中野眞宏（なかのまさひろ）さん  
鉢花 ミニガーベラ、ブーゲンビレア

【平成22年11月25日掲載】

津島市でミニガーベラとブーゲンビレアの鉢花生産を行っている「なかの園芸」園主の中野眞宏さん（写真1）を紹介します。中野さんは、オリジナル品種の育成を積極的に行い、「消費者に喜ばれるもの、きれいなもの、かわいいもの」をモットーに、豊富な花色・花形のミニガーベラや個性あるブーゲンビレアなどを育成し、オリジナル化に取り組んでいます。

### 1 鉢花栽培を始めたきっかけ

中野さんは、愛知県追進営農大学校（現農業大学校）を卒業し、その後、農業総合試験場で研修を受け、28歳の時に就農しました。

中野さんの両親はイチゴ栽培を行っていましたが、自身は就農と同時に、新たに鉢花栽培を取り入れました。

鉢花を始めた理由は、イチゴと鉢花との作業性の違い（例えば、腰をかがめる作業が少ないこと）や今後の経済動向を考えた中で、鉢花生産に将来性を感じたからでした。

当初は、ポットマム、イチゴの鉢植えを、その数年後にはブーゲンビレア、リーガースベゴニアを、さらにミニガーベラを加えて生産してきました。

### 2 現在の取組について

イチゴ栽培から鉢花栽培の専作になって、20年が経過し、現在では、施設面積は6,654㎡で、9月～5月にはミニガーベラを16万4千鉢、5月～8月にはブーゲンビレアを2万6千鉢を出荷しています（写真2）。

出荷は主に市場が中心ですが、インターネットによる直販、花屋の店舗を借りて企画店頭販売するなど工夫されています。

労力は、中野さん本人、奥さんの八重子さん、パートさん8名、中国人研修生3名です（写真3、4）。



写真1 中野眞宏さん（右）  
奥さんの八重子さん（左）



写真2 施設の様子

### 3 品種の育成について

「なかの園芸」自慢の豊富な花色・花形が魅力のミニガーベラは、白、ピンク、赤、オレンジ、黄色を中心に約50色、様々な形を組み合わせると150～200種類を生産しています（写真5）。この中から選りすぐりの品種を「ナカノセレクション」として出荷しています。ミニガーベラの品種の育成について、中野さんは「最初は自分の好みであった色・形を育成していたが、それから消費者の好みのものを追求するようになった。」と語られました。

ブーゲンビレアの育成については、「最初はコストがかからない作型・品種を育成し、途中から自分の感性を生かし、手間暇かけて育成を行った。」と苦節10年、改良に改良を重ね、次から次へ咲き続ける特長をもつ品種などを育成されました。

### 4 将来の取組について

将来の夢をお聞きしたところ「利益追求と消費者ニーズを捉えながら、新しい品種を育成し、付加価値を付けて売りたい。」、また行政への要望として「花農家が育成したオリジナル品種に対して、県をはじめ行政が保護育成の支援をしてほしい。」と語られました。

なかの園芸 HPアドレス

<http://nakanoengei.jp/>



写真3 作業の様子



写真4 作業の様子



写真5 ミニガーベラ

執筆：農業経営課

取材協力：海部農林水産事務所農業改良普及課